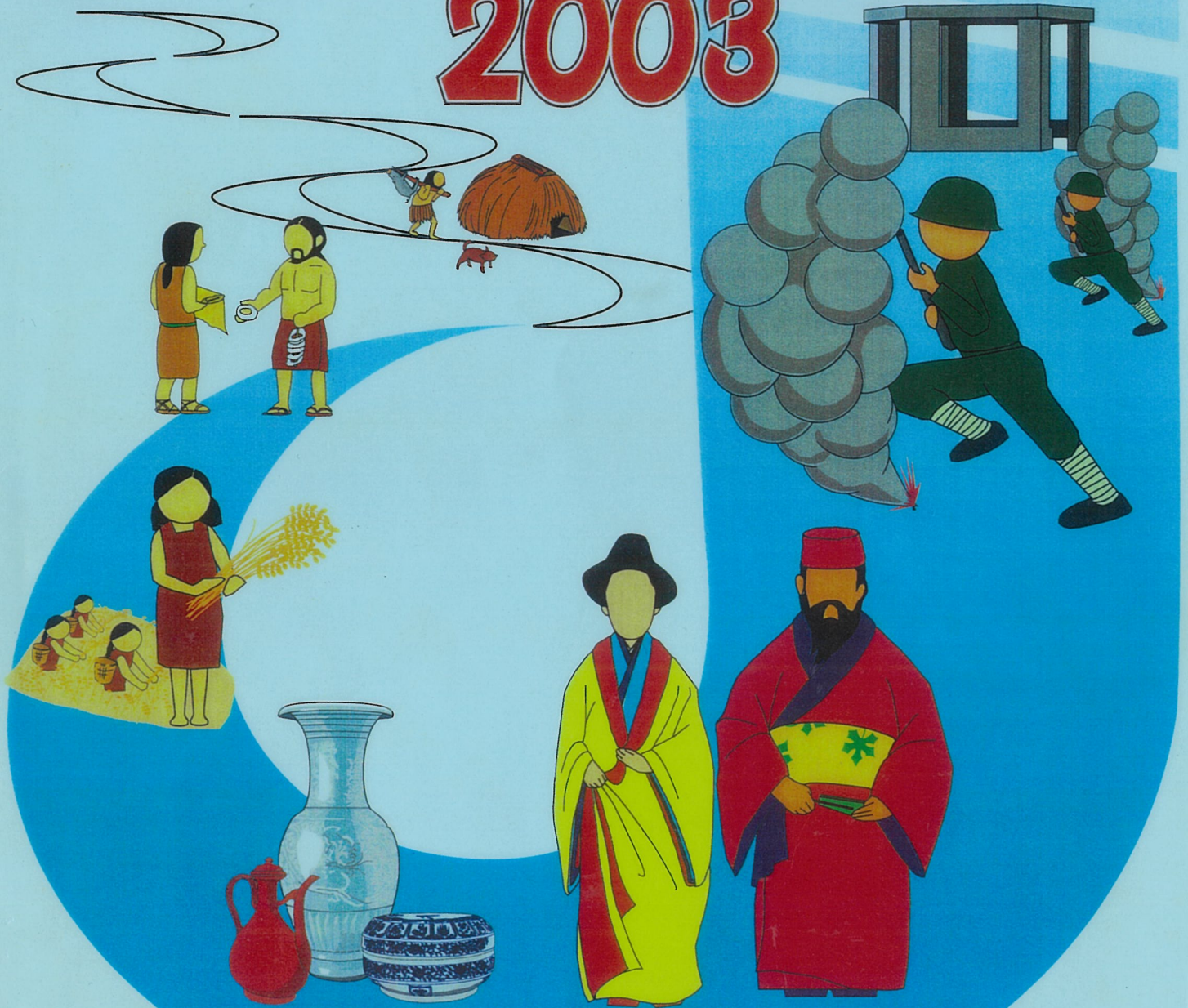


まいびん
センター 企画展

発掘調査速報展

2003



期間：平成15年7月29日(火)～8月31日(日)

沖縄県立埋蔵文化財センター

目次

ごあいさつ

平成14年度発掘調査等分布図	1
平成14年度発掘調査等一覧	2
なぜ、行政機関(埋蔵文化財センター)が 発掘調査をおこなうのでしょうか?	3
ナカンドカリヤマの古墓群	4
嘉田地区古墓群	5
沖縄の古墓群	6
「嘉田地区古墓群」と「ナカンドカリヤマの古墓群」	6
基地内埋蔵文化財分布調査	7
新城下原第二遺跡	8
新石垣空港建設予定地内遺跡詳細分布調査	9
首里城跡(書院・鎖之間地区)	10
首里城跡(上の毛周辺地区)	11
御茶屋御殿跡	12
戦争遺跡詳細分布調査の目的	13
戦争遺跡詳細分布調査	14
アンチの上貝塚	15
平成15年度発掘調査等予定一覧	16

凡例

- 本書は、沖縄県立埋蔵文化財センターの企画展「発掘調査速報展 2003」を補完するものとして編集したものである。
- 本書の順序は、展示の各コーナーに沿って掲載している。
- 許可なく本書の無断複製、転載、複写を禁ずる。

ごあいさつ

沖縄県立埋蔵文化財センターでは、過去の人々が残した貝塚、ムラ跡、グスク（城砦）、墓などの遺跡を発掘し、その成果を整理分析して、遺構・遺物の実測図、遺跡の地形図・土層図やこれらの写真、統計資料などを含めた「発掘調査報告書」を発行しています。また、発掘された土器、石器、貝器、骨器、陶磁器、瓦、金属器などの遺物や、撮影・実測された遺構の写真・図面などは、当埋蔵文化財センターに収蔵保管しています。

これらの遺跡・遺物の内容や成果についてはそれぞれの「発掘調査報告書」に目を通すか、あるいは当埋蔵文化財センターで資料を閲覧するなどの方法で知ることができます。しかし、調査報告書の発行までには数年を要することから、調査報告書刊行前にそのあらましと主な出土品を広く公開し、なるべく早く県内外の方々に見ていただきたいと考えております。そこで当埋蔵文化財センターでは、前年度の発掘成果を展示公開する「発掘調査速報展」を毎年実施しております。

2002(平成14)年度に当埋蔵文化財センターでは、首里城内外など史跡(公園)整備にともなう発掘調査2件、開発にともなう緊急発掘調査4件、遺構確認調査1件、遺跡分布調査3件を実施しました。「発掘調査速報展」では、これらの調査成果のなかから主な遺構の写真パネルや出土品を展示し、そのあらましを紹介しております。

この速報展を通して、より多くの方々が県内の遺跡・遺物の情報にじかに接し、沖縄の歴史と文化に関する知識とそれを支える埋蔵文化財の重要性への認識を深めるとともに、当埋蔵文化財センターの業務と役割をご理解いただければ幸いです。

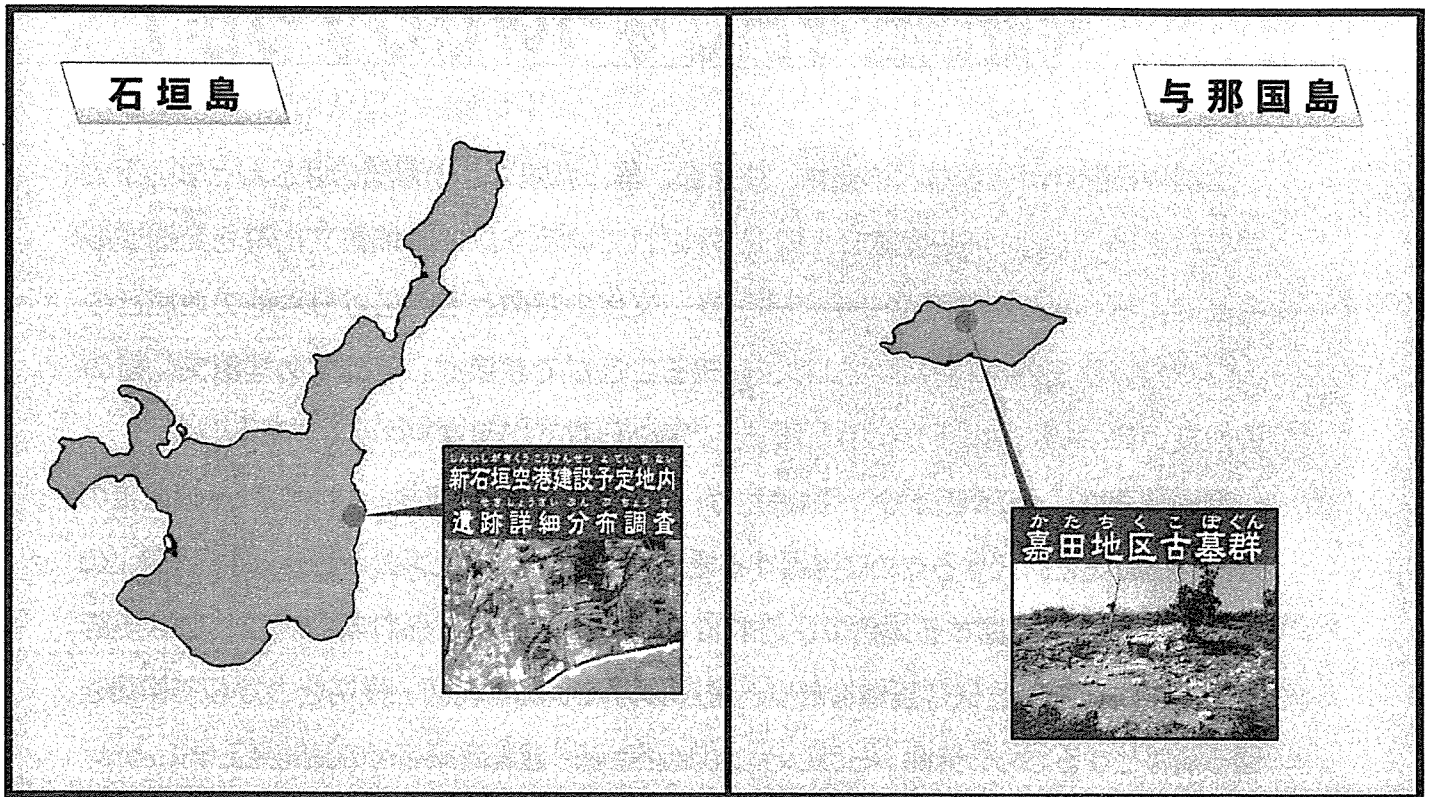
2003(平成15)年7月

沖縄県立埋蔵文化財センター

所長 安里 嗣 淳

平成14年度発掘調査等分布図





平成14年度発掘調査等一覧

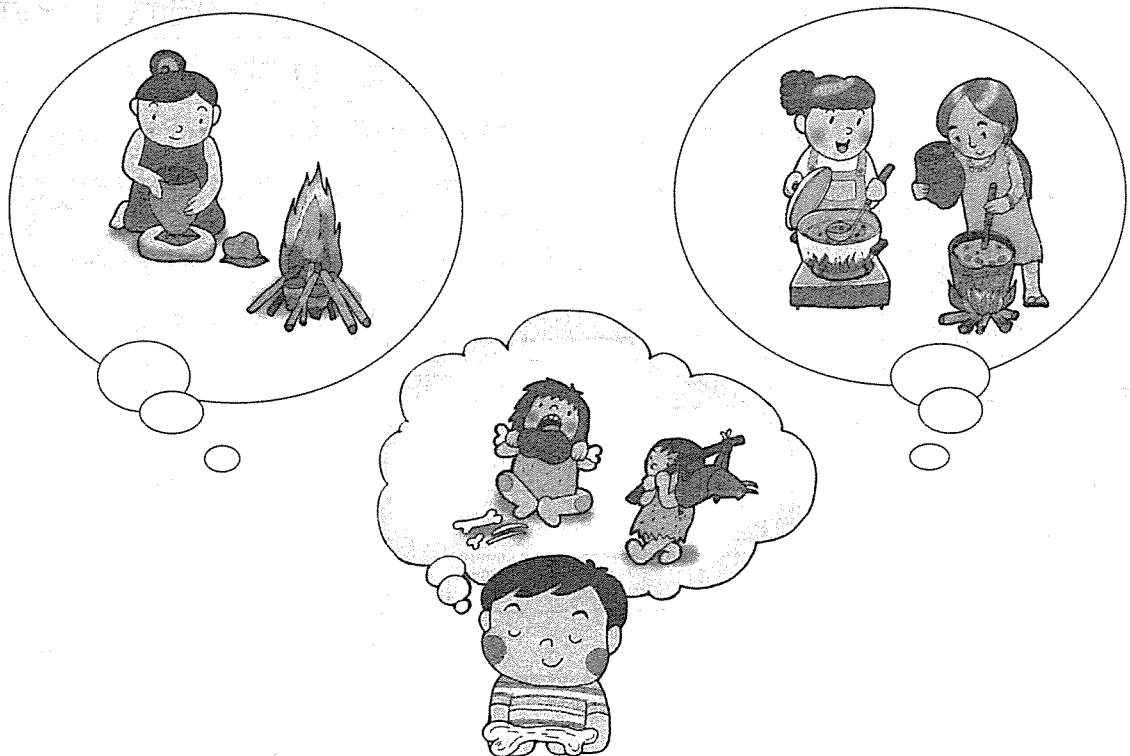
	遺跡及び事業名	所在地	時代区分
1	ナカンドカリヤマの古墓群	那覇市	グスク時代末～近代
2	嘉田地区古墓群	与那国町	近世～近代
3	基地内埋蔵文化財分布調査	宜野湾市	先史時代～近世
4	新城下原第二遺跡	宜野湾市	沖縄貝塚時代後期 (弥生時代中期～後期)
5	新石垣空港建設予定地内遺跡詳細分布調査	石垣市	南琉球石器時代後期～近世・近代
6	首里城跡(書院・鎖之間地区)	那覇市	グスク時代～近代
7	首里城跡(上の毛周辺地区)	那覇市	グスク時代～現代
8	御茶屋御殿跡	那覇市	近世～近代
9	戦争遺跡詳細分布調査	那覇市及び島尻郡に属する9町村	近代
	市町村依頼による調査	所在地	時代区分
1	アンチの上貝塚	本部町	沖縄貝塚時代後期

なぜ、行政機関（埋蔵文化財センター）が 発掘調査をおこなうのでしょうか？

土器や石器や陶磁器などの遺物、住居跡、墓、城壁などの遺構のほとんどは地下に埋もれていることから「埋蔵文化財」と呼ばれています。この埋蔵文化財を発掘することで、昔の人々の生活や社会のようす、文化の特徴とその広がりや他の地域とのつながり、歴史的な移り変わりなどを知ることができます。そのため埋蔵文化財の取り扱いについては、「文化財保護法」で定められています。

発掘調査は、その「きっかけ（動機）」から二つに分けられます。ひとつは、学術上の理由から歴史を研究するために発掘する場合です。もうひとつは、行政機関が行政上の動機（必要）から発掘する場合で、これはさらに二つに分けられます。ひとつは史跡に指定された遺跡を保存整備したり、遺跡の分布状況や範囲・性格をつかんで保護を図る情報とするための発掘、もうひとつは道路整備、建物建築などの諸開発工事により、どうしても遺跡の現地保存ができず、「記録保存」をするために発掘する場合です。

史跡整備や記録保存のための調査は、当埋蔵文化財センターや市町村の教育委員会がおこなっています。県内では、毎年数十件の行政発掘調査がありますので、機会があれば身近なところで発掘現場のようすを見学することをおすすめします。



ナカンダカリヤマの古^こ墓^ぼ群^{ぐん}

所在地：那覇市首里金城町3丁目

時期：グスク時代終末～近世

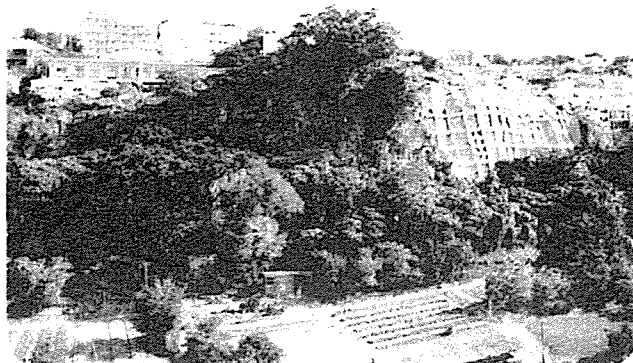
調査期間：2002(平成14)年10月1日～

2003(平成15)年3月20日

調査内容：

首里の内金城御嶽の東側の石灰岩段丘の崖、長さ約100m、高さ約8mの範囲に16基の掘り込み墓(フィンチャー)が造られて

あり、グスク時代終末期～近世にかけて使われた古^{ふる}墓^ぼです。一帯は急傾斜地崩壊危険区域に指定されており、県土木建築部河川課による擁壁^{ようへき}工事^{こうじ}にともなって発掘調査を行いました。各墓はすべて空き墓になっていました。床面の発掘によって人骨、獣骨、土器壺、陶磁器、古銭、金属製品、木片などが出土しています。人骨の中には火を受けたものも見られ、当時の葬送^{そうそう}方法を知る手がかりになるものと思われる。



調査区遠景



10号墓 イノシシ頭骨出土状況



7号墓内



6号墓 焼けた人骨の入った
甕の出土状況

か た ち く こ ほ ぐ ん
嘉田地区古墓群

所在地：与那国町字与那国小字野武原

時代：近世～近代

調査期間：2002(平成14)年8月1日～

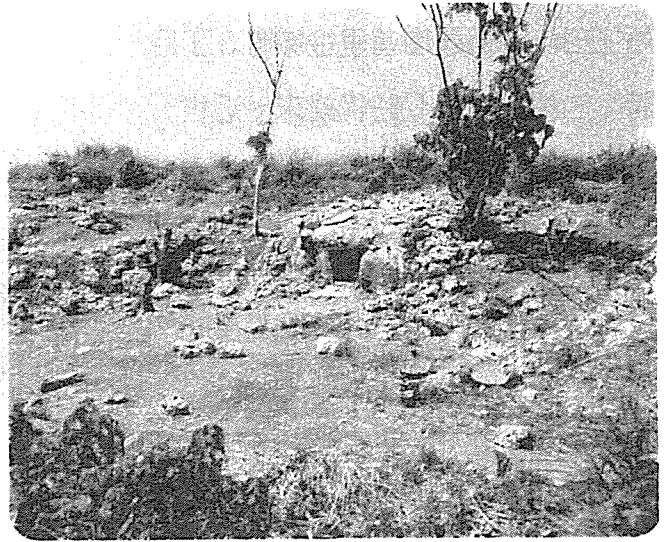
2002(平成14)年11月29日

調査内容：

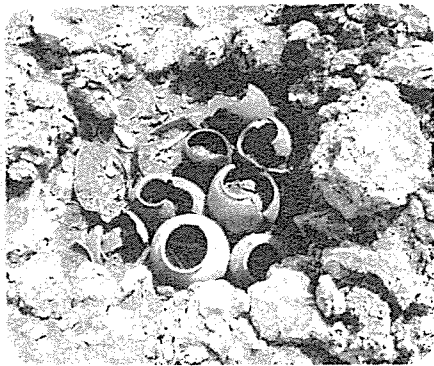
与那国島の北側台地上にある近世～近代にかけての遺跡です。土地改良にともなう緊急調査として、33基の古墓を確認しました。古墓3基は人骨を埋葬した状態、

1基は骨を納めた土器壺などを確認しま

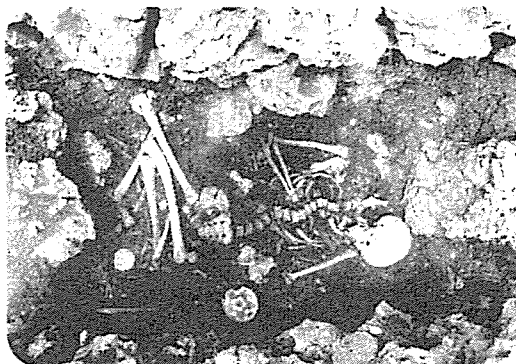
した。出土した遺物は沖縄産の陶器が中心で、その他に中国や本土産の陶磁器などがあります。遺物は墓の中から多く出土し、ひとつの墓から70点あまりの陶磁器が出土した例もありました。また、本土産の陶磁器には県内で初めて出土したものがありません。



調査区近景



27号墓 厨子甕出土状況



20号墓 人骨検出状況



本土産陶磁器

沖縄の古墓

これまでの調査研究からすると、近世～近代にかけての古墓にはある一定の傾向がみられるようです。ひとつは人が亡くなった時はどこにでも葬る^{ほうむ}というわけではなく、区域を決めています。それが墓域・墓地と称されるところで、主に崖下や谷地および海岸近くの砂丘などを利用しています。このような場所は宅地や耕作地としての土地利用(当時の開墾技術^{かいこん}では)が困難です。逆にいうと、生産活動に支障のない土地を墓域として利用していたことがうかがえます。

墓の形は、崖下や谷地では横穴を掘り、墓口は石積みで塞ぐ、いわゆるフィンチャー(掘り込み墓)です。砂丘では直接砂を掘り込んだ土坑墓^{どこうぼ}もしくはテーブルサンゴで周りを囲った石棺墓^{せつかんぼ}などがあります。

埋葬形態は木棺に安置した直葬、土器や陶器、石製の蔵骨器(厨子甕^{そうこつき ずしがめ})に安置した二次葬があり、それぞれ墓に葬られています。また、墓は個人墓ではなく、ある程度の親族、血縁者または地縁者の集団墓です。

「嘉田地区古墓群」と「ナカンダカリヤマの古墓群」

両者の墓を比較すると、共通する点は先述したとありの特徴を有していて、墓域の地形的な違いも嘉田地区古墓群が谷地、ナカンダカリヤマの古墓群が崖下に形成されている程度で、基本的には一緒です。また、墓の形態や埋葬形態にも大きな差は認められません。

両古墓群とも直接に埋葬した人骨も見つかっていますが、再葬する以前の段階(一次葬)で放置されたものと考えられます。副葬品に関しては、すでに墓の移転が終了したもの(いわゆる空き墓)が多いためよくわかりませんが、嘉田地区では1基の墓から数十点の陶磁器が見つかっています。

以上、両古墓群を比較した限りでは、顕著な相違点^{けんちよ}が見いだせないことから、近世～近代にかけての古墓は沖縄本島と先島でも同様な特徴を有していたことがうかがえます。このことは当時の人たちの死生観もほぼ同じであったことがわかります。

き ち ない まい ぞう ぶん か ざい ぶん ぶ ちよう さ

基地内埋蔵文化財分布調査

所在地：在沖米軍海兵隊基地普天間飛行場
(宜野湾市)

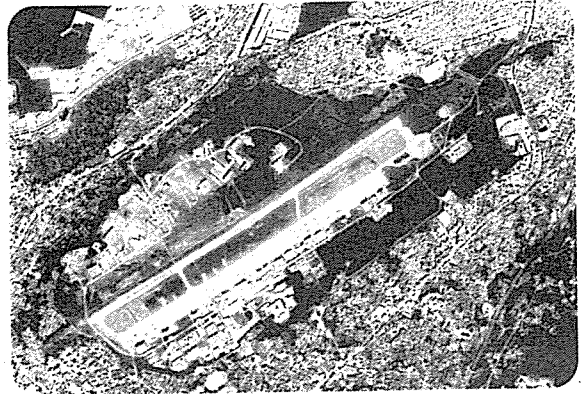
時代：先史時代～近世

調査期間：2002(平成14)年8月1日～
2003(平成15)年3月31日

調査内容：

沖縄県内の米軍基地や自衛隊基地に、埋蔵文化財(遺跡)があるかどうかなどを調べる事業です。1999(平成11)年度からの継続事業で、普天間飛行場内を4m四方の範囲で、重機による試掘で186ヶ所、また、2m四方の範囲を作業員の手掘りによる試掘で122ヶ所掘りました。

その結果、滑走路を挟んで南西側にはグスク時代～近世にかけての遺跡が、北東側では先史時代～グスク時代にかけての遺跡があることがわかりました。先史時代の遺跡では、竪穴住居址も見つかっています。



普天間飛行場航空写真



グスク時代の柱穴群検出状況



住居址検出状況

あら ぐすく しちゃ ぼる だい に い せき

新城下原第二遺跡

所在地：宜野湾市字安仁屋前原ほか

時代：沖縄貝塚時代後期

調査期間：2002(平成14)年12月2日～
2003(平成15)年1月31日

調査内容：

当遺跡は、キャンプ瑞慶覧の中の、
後背に石灰岩台地をひかえた海岸低地の

砂地にあります。丘のふもとから湧き出す泉の水が近くで小川となって流れていますが、
かつてはこの一帯にあったようで、調査区内で小川の跡が確認できました。砂地は地下水を
多く含んでいるため、水をくみ出しながらの発掘作業でしたが、文化層からは沖縄貝塚
時代後期の土器や、九州に関連する弥生系土器が見つかりました。

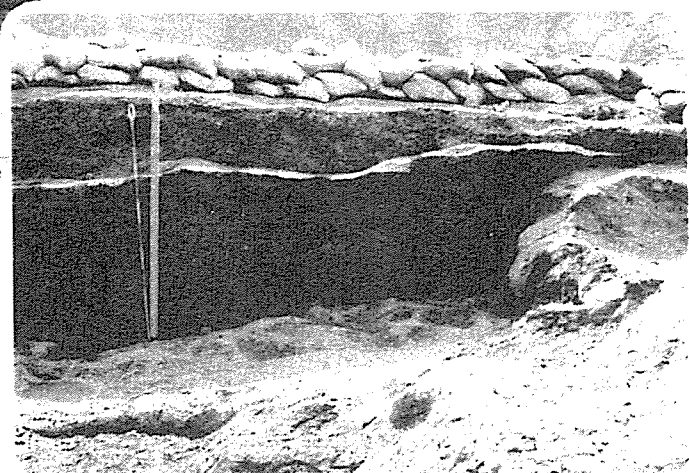
なお、2000(平成12)年度の調査ではイモガイの集積が検出され、九州の弥生時代の
人々との貝の交易に備えていたものと考えられています。



調査区全景



川跡検出状況(平面)



川跡検出状況(断面)

しんいしがきくうこうけんせつよていちないいせきしょうさいぶんぶちょうさ
新石垣空港建設予定地内遺跡詳細分布調査

所在地：石垣市白保・盛山

時代：南琉球新石器時代後期
～近世・近代

調査期間：2002(平成14)7月8日～19日・
12月2日～20日、
2003(平成15)年2月24日～
3月14日



建設予定地航空写真

調査内容：

新石垣空港建設予定地内には、これまでの調査で先史時代の貝塚から近世の村跡まで、次の6つの遺跡が見つかっています。①カラ岳遺跡、②アブ遺跡、③嘉良嶽^{からだき}貝塚、④轟川川尻遺跡、⑤盛山村跡、⑥ヤマレー石器材料地。

今回の調査では、石垣島ゴルフ場内の雑木林の岩陰などから3基の古墓が新たに見つかりました。そのうち2つの墓には、人骨を納める小型の厨子甕^{ずしがめ}が2～3個安置されていて、もうひとつの墓は、特に容器はなく岩陰内に人骨が散乱していました。厨子甕の形や模様などからみると、19～20世紀の新しい時期の墓のようです。



墓内部（厨子）



墓内部（頭骨）

しゅ り じょう あと しよ いん さす の ま ち く
首里城跡(書院・鎖之間地区)

所在地：那覇市首里当蔵町3丁目

時代：グスク時代～近代

調査期間：2002(平成14)年5月13日～

2002(平成14)年10月31日

調査内容：

書院は、琉球国王が日常の政務を行った建物で、中国の冊封使さっぽうしの接待所としても使われました。鎖之間は書院の西隣りにあり、薩摩の賓客等ひんきゃくを接待した所とされています。この2つの建物が建てられた年代は不明ですが、天啓年間てんけい(1621～1627年)には建っていたといわれています。

今年度の調査の結果、書院の建物の柱穴が見つかりました。また書院・鎖之間の北側で枯山水式(?)の庭園の一部が見つかりました。出土品には日本・中国・タイ産の陶磁器、屋根瓦、金属製品、石製品、獣骨、貝殻などがあります。



調査区全景



柱穴検出状況(書院)



庭園跡検出状況
(庭石・階段)

しゅり じょうあと いい め もう しゅう へん ち く

首里城跡(上の毛周辺地区)

所在地：那覇市首里当蔵町3丁目

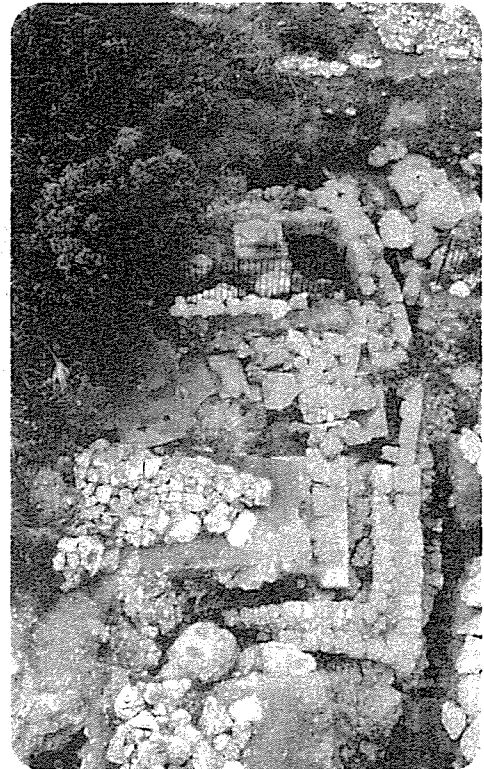
時代：グスク時代～現代

調査期間：2002(平成14)年11月1日～
2003(平成15)年2月28日

調査内容：

上の毛周辺地区は、首里城跡の東側外郭で、既に調査が行われた部分は公園として整備されています。

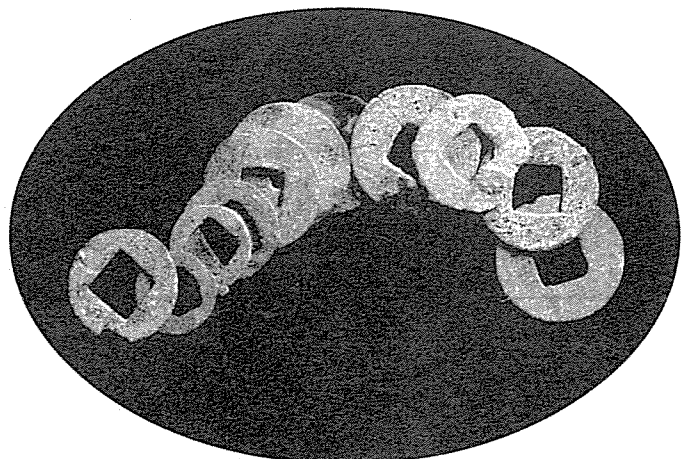
2002(平成14)年度の調査は、古地図や絵図に描かれているくになかぐすくう たき国中城御嶽の石積と城郭沿いの石畳道の検出を目的として調査を行いました。その結果、国中城御嶽を囲む石積は、第二次世界大戦などで破壊された後、修復されていることが分かりました。また、古絵図等にみられるくすくめ しちや「城の下」から「上の毛」への石畳道の一部も検出されました。遺物は少なく、特徴的なものとしては古銭ほとめせん(鳩目銭)が約50点出土しています。



調査区全景



石畳道検出状況



鳩目銭

う ちゃ や う どうん あと
御茶屋御殿跡

所在地：那覇市首里崎山町4丁目

時代：近世～近代

調査期間：2002(平成14)年8月1日～

2002(平成14)年8月30日

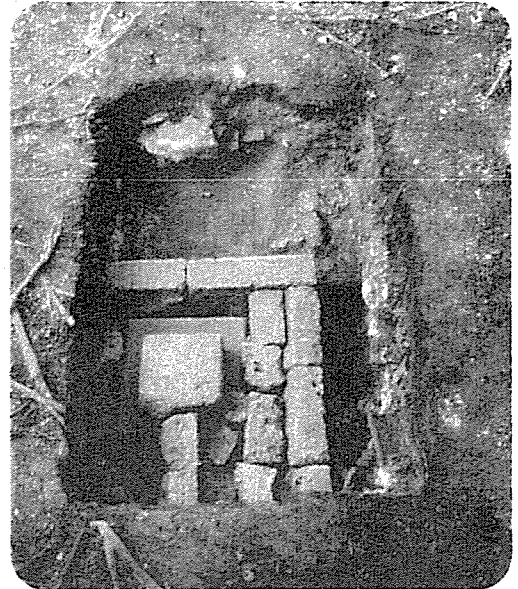
調査内容：

この御殿は、見晴らしのよい丘の上に琉球王国時代の王家の別邸^{べってい}として建てられました。国王一行は、ここで茶や生け花、芸能の催し物を楽しんだり、国の大事なお客さんをもてなしたりしました。

建物は長い間残っていたのですが、去る沖縄戦で焼けてしまいました。

今回は、昔の写真や地形の観察をもとに、茶亭跡^{ちやてい}の基礎部分の様子を知るための発掘をしました。その結果、玄関の石敷や縁石の積み石が見つかり、石敷の幅もわかりました。

また、茶亭跡の南西側の隅のところで柱を据えた礎石が確認できました。これまでの調査成果から、茶亭がどのくらいの大きさだったのかを、考えることができます。



茶亭跡礎石検出状況



石敷遺構検出状況

せん そう い せき しょうさい ぶん ぶ ちょう さ 戦争遺跡詳細分布調査の目的

1995(平成7)年、文化庁により「史跡」の基準が改められた際に、太平洋戦争における戦争遺跡も史跡として指定することが可能となりました。それを受けて、1995(平成7)年に広島の前爆ドームが国指定の史跡となり、1996(平成8)年にユネスコ世界遺産に登録されるなど、戦争遺跡を次の世代に伝えることの必要性が認められたといえます。

沖縄県は、去る沖縄戦により多くの一般住民を巻き込んだ激しい戦いがくり広げられました。そのため、多くの人命とともに、貴重な文化遺産が失われました。

現在、これらの戦争遺跡を用いて、沖縄戦の様子を次の世代に伝える平和教育が行われています。しかし、戦争遺跡に対する関心は高まっていますが、それをどのように調査・研究するのかという検討は充分ではありませんでした。

このような点をふまえ、戦争遺跡の分布状況と、それぞれの詳しい調査を実施し、現状を把握することで、(1)文化財指定およびその保存に向けての資料、(2)諸開発事業から保護するための資料、(3)歴史学習・平和教育等への戦争遺跡の活用に供する基礎資料を作成することを目指しています。

戦争遺跡とは？

戦争遺跡とは、近代以降の戦争(沖縄県においては沖縄戦)と、戦争が行われる上で、戦闘や事件の加害・被害に関わって形成され、かつ現在に残された構築物・遺構や跡地を指しています。

せんそう い せきしょうさいぶん ぶん ちょう さ

戦争遺跡詳細分布調査

所在地：那覇市及び島尻郡に属する9町村

時代：近代

調査期間：2002(平成14)年5月1日～

2003(平成15)年3月31日

調査内容：

沖縄戦やこれに関連する遺跡は、どのような種類、形、規模、範囲、数量が残されていて、どのような状況になっているのかの調査をおこな

なっています。これまで、沖縄本島とその周辺離島の分布調査をおこなってきました。

2002(平成14)年度は、島尻郡に属する離島地域の9町村(伊平屋・伊是名・渡嘉敷・座間味・渡名喜・粟国・久米島・南大東・北大東)の調査を実施しました。調査は、遺跡の地形・立地の観察、構造物・遺構の実測、地図記載、聞き取りなどが主な内容です。なお、地上戦のなかった南北大東村では、守備隊本部壕が沖縄戦当時の形で残されています。9つの離島地域で、合計85の遺跡が確認されました。



北大東の陸軍本部壕



久米島喜久村家の防空壕



座間味村ヤマトウンマの壕



粟国村真鼻毛の擬装砲台跡

アンチの上貝塚

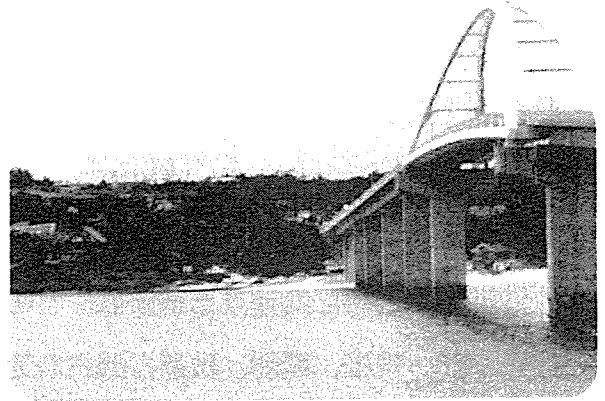
所在地：本部町大字瀬底小字アンチ浜

時代：沖縄貝塚時代後期前半
(弥生時代中期～後期並行)

調査期間：2002(平成14)年11月27日～
2003(平成15)年1月23日

調査依頼機関：本部町教育委員会

調査内容：



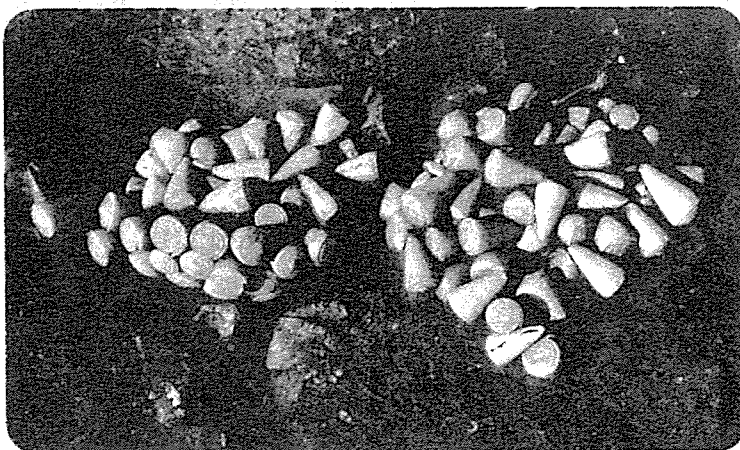
調査区遠景

アンチの上貝塚は、本部町瀬底島東部の海浜砂丘にある沖縄貝塚時代後期前半(弥生時代中期～後期並行)の遺跡です。

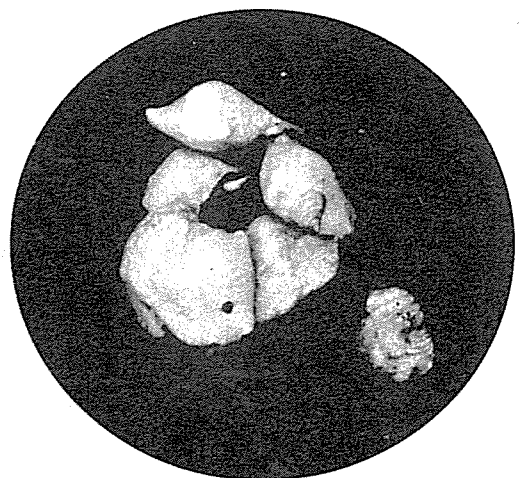
個人住宅の建設計画にともなった発掘調査で、イモガイの集積遺構しゅうせき いこうや土器類をはじめ石器、貝製品などの遺物が得られています。

貝の集積遺構が4基、磨石すりいしの集積遺構が1基検出され、なかでもイモガイの集積遺構の3・4号は隣接して置かれ、積まれた貝殻も76点(3号)・107点(4号)と他遺跡に例を見ないものでした。

出土遺物としては、乳房状尖底土器を主体とする沖縄貝塚時代後期前半の在地土器や、九州の弥生中～後期土器及びその系譜をひく土器群が見つかっています。



3号・4号集積遺構(イモガイ)



ゴホウラ集積遺構

平成15年度発掘調査等予定一覧

	遺跡及び事業名	所在地	調査期間	時代区分
1	新城下原第二遺跡（キャンプ瑞慶覧内）	宜野湾市	4月～1月	沖縄貝塚時代早期～現代
2	基地内埋蔵文化財分布調査（普天間基地内）	宜野湾市	6月～11月	沖縄貝塚時代中期～近世
3	首里城跡（黄金御殿地区）	那覇市	6月～11月	グスク時代～近代
4	御茶屋御殿遺構確認調査	那覇市	7月～8月	グスク時代～近代
5	首里城公園発掘調査	那覇市	9月～2月	近世～近代
6	新石垣空港建設予定地内遺跡詳細分布調査	石垣市	6月～10月	南琉球新石器時代後期～近代
7	戦争遺跡詳細分布調査	宮古地区	8月～11月	近代

今後の

埋文センター行事案内

沖縄県立埋蔵文化財センターでは、発掘調査の他にも様々な行事を企画しています。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

●企画展

「首里城京の内跡出土品展」 2004年1月15日（木）～1月18日（日）

●移動展

「発掘調査速報展 2003」（県庁：県民ひろば） 2003年10月20日（月）～10月24日（金）

●埋文センター文化講座

「琉球先史時代の貝交易」 講師：木下尚子氏（熊本大学教授）
2004年1月10日（土）午後2時～

●埋文センター特別講演会

「中国殷文化とタカラガイ」 講師：王 巍氏（中国社会科学院考古研究所所長）
2003年11月2日（日）午後3時30分～

●休 所 日 毎週月曜日、国民の休日(こどもの日、文化の日を除く)
年末年始(12月28日～1月4日)、慰霊の日(6月23日)
※祝日と月曜日が重なったときは、翌火曜日も休所

●交 通 ◇沖縄自動車道西原ICより 車7分
◇市外線バスターミナル発97番
「琉大附属病院前」下車 徒歩1分

沖縄県立埋蔵文化財センター

〒903-0125 沖縄県中頭郡西原町上原193-7
TEL 098-835-8751 FAX 098-835-8754
<http://www.maizou-okinawa.gr.jp/>

埋文センター案内図

